

世界自然保護連合 (IUCN) インターンシップレポート

太田早耶¹⁾

所属 1) 筑波大学 人間総合科学研究科世界遺産専攻

Internship Experiences at IUCN

Saya Ota¹⁾

1) World Heritage Studies & World Cultural Heritage Studies, Graduate School of Comprehensive Human Sciences, University of Tsukuba

1 はじめに

今回、自然保護寄附講座の支援により、世界自然保護連合 International Union for Conservation of Nature (以下 IUCN) の世界遺産プログラムで半年間のインターンシップを行ってきた。IUCN の本部はスイスジュネーブ近郊の町グランにあり、本部で働く 200～300 人のうち、世界遺産プログラムには 6 名の職員が所属している (図 1、2)。筆者が担当した主な業務は、世界遺産委員会の準備と世界自然保護会議の準備の 2 つに分かれる。本稿では、それぞれについて業務内容と感想を簡単に述べていく。



図 1. IUCN 本部エントランス



図 2. 世界遺産プログラムのオフィス

2 第 40 回世界遺産委員会の準備

2016 年度の世界遺産委員会は、7 月半ばにトルコのイスタンブールで開催された。情勢不安のため、残念ながら筆者は会議自体には出席できなかったが、事前準備を担当した。担当した業務は、主に第 40 回世界遺産委員会概要の作成と、サイドイベントの管理であった。概要に含まれる内容は、会議のプログラムや、どの資産が議論され、誰がいつ演台に立つかという委員会運営に関わることから、イスタンブール市内の交通や空港の情報等周辺の事まで多岐にわたっている。サイドイベントは、会議の合間に諮問機関等によって行われるイベントで、IUCN でもいくつかイベントを開催することを決定し、筆者はその取りまとめと管理、ICOMOS のサイドイベントの担当者の方と連絡を交わして、プログラムの調整を行った。その他評価書に記載されている生物名のチェックや、IUCN メンバーへのニュースレター、各国使節に送る手紙の作成なども担当した。

実際に会議に行くことができなかったため、委員会での雰囲気を感じることができなかったが、世界遺産委員会の準備・運営業務を通じて、諮問機関の役割や世界遺産に関する IUCN 内での議論に触れることができ、大学の授業で学んだことと実務との関係を見ることができた。

3 世界自然保護会議の準備

2016年度の世界自然保護会議 World Conservation Congress は、アメリカのハワイ州ホノルルで開催された(図3)。世界中から環境保護や自然資源の管理・利用などに携わる方々が参加し、前半のフォーラムでは多種多様なイベントが行われ、後半の総会では IUCN の方針について議論が交わされた。



図 3.世界自然保護会議 会場



図 4. 缶バッジのデザイン画

担当した主な業務は、世界遺産プログラムチーム主催の World Heritage Journey と Nature-Culture Journey の補助であった。各 Journey の中に、各テーマに関わる多くのイベントがあり、イベントごとに責任者や演者がいる。これらイベントのリスト作成や更新、イベント関係者の連絡先管理を担当した。他に、Nature-Culture Journey 用に設置されたグループサイトの更新やイベントのフライヤー作成、ハワイへの配送準備なども担当した。

特に印象的だった業務として、Nature-Culture Journey のために缶バッジをデザインし、イベントで関係者全員への配布したことがあげられる(図4)。「私がデザインしていいのか」と最初は戸惑ったが、現地で缶バッジを受けとった方が喜ぶのを見たり、デザインを褒めてくれたりして、私もとても嬉しくなり、やりがいを感じた。

現地ではイベントの手伝いや、チームが関わるイベントの情報更新等を行った。フォーラム開催中は、これら二つの Journey のイベントも多く開催される Protected Planet Pavilion の会場設営や整備、イベントの調整を行った(図5)。

準備してきたことが、実際に会期中現場で運営されていくのは非常に感慨深く、IUCN のチームの一員としてこの大規模な会議に貢献できたことを実感し、喜びと同時に達成感を得ることができた。忙しくて目が回りそうなこともあったが、興味のあるイベントの見学や会場内散策の時間を設けてもらい、自然に関わる、世界中から来た参加者たちの熱気を直接感じ、またそのような方々と話すなど、本当に貴重な経験をしたと感じている(図6)。



図 5. Protected Planet Pavilion



図 6. 世界遺産プログラムチーム

4 おわりに

社会で働くこと、こんなにも国際的に多様な場に身を置くこと、そのどちらもが筆者にとっては初めてのことであり、壁にぶつかったり心が折れそうになった回数は数えきれなかった。しかし同時に全てが新鮮で、面白く、興味深く、落ち込んでいる暇がないくらいであり、周りのスタッフなど多くの方々が、本当に優しく私を受け入れてくれ、この半年間、最も有意義で刺激と発見に満ちた体験を得ることができた。